

3. 研究課題と委嘱者

<第3回：1996年度(1996～1998)>

①第一課題：地方空港の歴史と将来(ガンダー、シャノン、中標津)

カナダの最東端ニューファウンドランド島のガンダー(Gander)は、大西洋横断の旅客機が利用した古い空港である。また、ヨーロッパの最西端のアイランドのシャノン(Shannon)は、ガンダーに対応するヨーロッパ側の空港であった。その後、旅客機の飛行可能距離が延び、各国主要都市間を直結することが可能となり、両空港は最初の役割を終わった。しかし現在に至るも両空港は健在で活動を続けている。この両空港の発足以来の歴史を辿り、現在も活動している要因を考慮し、これを参考にして、北海道東部の中標津空港の活用について提案する。

委嘱者：田村 亨(室蘭工業大学助教授)

<第4回：1997年度(1997～1999)>

①第一課題：先進国の大都市における田園都市思想の現状と今後の課題

首都ロンドンにつながるイギリスの南部の州ケント(County of Kent)は、イングランドの庭(The Garden of England)と呼ばれている。同様にニューヨークの南に続くニュージャージー州(New Jersey State)は、The Garden Stateと呼ばれる。また、フランスに於いても、パリの北にドーバー海峡まで広がる肥沃な地方を“フランス国王の冠”と呼んで、その田園地帯を大切にしている。これらの三例に就いて、その豊かな歴史と美しい田園の沿革と現状を調査し、我が国の東京大都市圏に於ける神奈川県を対象を絞り、その現状と望ましい将来の在るべき姿について考察する。

委嘱者：風見 正三(大成建設(株)設計本部環境計画部)

②第二課題：英国都心居住の空間構成とその世界分布に関する研究

19世紀のイギリスの中堅階層は、ロンドン市街地の都心をめぐる地域に住み、その住宅は、4-5階の住宅が長屋風に連続し、背中合わせに同じような建物があり、その背割り線に当たる部分はMew(馬小屋)と称して、それぞれの家族の外出する時に使う馬車の為、馬丁と馬が共同生活をしていた空間であった。しかし、この場所は自動車時代を迎えて自動車の車庫となり、やがて、連続家屋の裏として、騒音のない空間として、住宅に転用されるようになり、快適な都心居住の例も見られるようになった。このMewの沿革と現状について考察する。

委嘱者：宇高 雄志(広島大学助手)

<第5回：1998年度(1998～2000)>

①第一課題：ローマの副都心形成の計画と成果

イタリアの首都ローマの都心は、数千年に及ぶ歴史の遺産に覆われており、都心部の改造は、極めて困難である。独裁者ムッソリーニは、万国博覧会を招致する為、市の南部にEUR地区の計画を実現すべく努力したが、途中で挫折した。この構想は戦後に受け継がれ、ローマの副都心として、現在のEURとして実現した。然るに、イタリア政府及びローマ市当局は、ローマ帝国時代からの旧市街地に十分な土地を、官公庁及び一般業務用地として供給することが困難なため、EURの東そして環状高速道路の内側に新しい都心用地を想定して、広く国際設計競技の手法にも依存して、この地区に新しい都心部を創設する計画を求めた。日本も含めて諸外国から応募があり、優れた都心部計画が纏まった。然るに、この計画は実現せず、この地区の西側を占める纏まった土地に、一般業務用地も含むいわゆるスーパー・ショッピング・センターが実現した。この両者の成否の理由と、後者が、現在のローマ地区の小売り商業に及ぼす影響等について考察する。

委嘱者：堀江 興(新潟工科大学教授)

②第二課題：メキシコの小都市メクスカルティトラン Mexcaltitlanの都市の自立性とその将来について

メキシコの首都メキシコ・シティの西方800km太平洋岸に位置する小都市である。このメキシコの小都市は、河のなかの丸い小島全体に広がっている。人口約二千、河水と海水が潮の干満により交代するので、漁業に恵まれており、観光資源としても特徴がある。しかし、下水道施設をはじめ、島民の為、将来の都市の自立性を如何にして保持して行くべきか。この小社会の沿革と自立性、そしてその将来の発展の可能性及び環境整備について考察する。メキシコ・シティそのものが、歴史的には、湖水の中の島が、都市の発展に従って、湖水を埋め立てて、市街地の拡張を図って今日に至っているのである。

委嘱者：斉藤 麻人(ロンドン大学政治経済学大学院地理学部大学院)

< 第 6 回 : 1999 年度 (1999 ~ 2001) >

① 第一課題 : カナダ内陸部の或る住宅団地形成経過の考察

カナダの首都、オタワ (Ottawa 人口 30 万) の東の郊外で、都心より 10 km のあたりに、郊外住宅団地がある。オタワ河に沿って東西に広がる市街地で、その中心を東西に幹線道路が貫いており、この道路は、更に東 150 km にある大都市モントリオール (Montreal 人口 300 万) に通じている。課題の市街地は、フランス語の支配するケベック州とは関係ないが、オタワ州内の二つのカウンティ (County) に、殆ど等面積でまたがっており、計画的な市街地の開発が出来なかったものと判断される。このような郊外市街地開発のカナダの手法を基本視点にすえて、その目標とした計画と、その現実を阻んだ事情について考察する。あわせて、計画されている雇用を生む団地 (Industrial Area または Business Park) の成否を調べ、この市街地の自立性に就いて考察する。実現した市街地の一部に、設計者の夢が偲ばれる。その一例をしるすと、前記東西幹線道路に 2 箇所のインターチェンジを設け、これを市街地内の環状道路への唯一の出入り口としている。実際は、西の一箇所のみ実現している点に着目したい。

委嘱者 : 勝又 太郎 (富士総合研究所社会基盤研究部)

② 第二課題 : コンテナ輸送に関する日本の立場 ロッテルダム港との比較

オランダのロッテルダムは、世界有数の港湾である。その港湾施設の最西端を占める Euro Port は、コンテナ港としても、最新かつ最大の機能を誇っている。その施設については、わが国においても、細部まで知れ渡っていると申しても過言ではない。しかしながら、わが国の港湾機能と、これにつながる陸上輸送体系は必ずしも万全ではない。ロッテルダム港の機能を的確に把握した上で、コンテナ輸送に重点を絞り、わが国の置かれている立場に就いて、国土全体の視点よりその問題点を考察する。ロッテルダム港の運営に関わる各方面の担当者と個々に面接し、これらの人々の、わが国の現状に対する意見を集大成することを期待する。

委嘱者 : 土井 正幸 (筑波大学教授)

< 第 7 回 : 2000 年度 (2000 ~ 2001) >

① 第一課題 : コパカバナ地区で働く人々の住宅と職場の関係

世界的に有名なブラジル・リオデジャネイロ市の海水浴場コパカバナ (Copacabana) 地区は、背後を丘陵に囲まれ、海浜に臨むホテルをはじめとして、高層建築物が多く、極めて高密度の市街地を形成している。一方、首都ブラジリア (Brasilia) においては、低所得の勤労者は、毎日バスで、遠距離通勤を強いられている。この両地区の住宅と職場の関係の違いを例とし、我が国の研究学園都市 “つくば” の特徴を論考する。

委嘱者 : 土生 珠里 (九州大学大学院)

② 第二課題 : イギリスの地方都市ニューベリーのバイパス道路について

イギリスの南部パークシャー州 (Berkshire County) にあるニューベリー (Newbury) は、人口 2 万程度の一地方都市に過ぎないが、工業都市バーミンガムから、大学都市オックスフォードを経て、サザンプトン港を結ぶ幹線道路が、町の中心部を通過していた為、戦後、永い間、バイパス計画の是非、そしてその通過位置に就いて議論され、その結果、市街地の西方を通過するバイパス道路が、実現した。ところが、この道路をめぐる、我が国の各地にも見られるような賛否の意見が提起されている。バイパス道路決定が、決定されるまでの経緯と、現在指摘されている問題点に関する対策について考察する。

委嘱者 : 村上 睦夫 (都市プラン研究所代表)